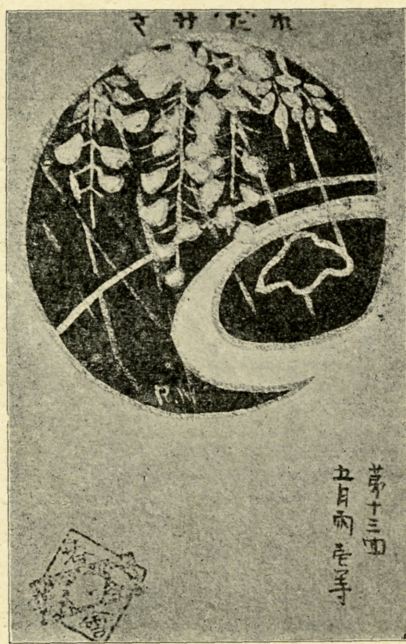


簡易寫生法

どうしたら早く綺麗なものが出来るでせうかとの御尋ね、これには御答へ苦しみ候。早く上手になれる道は注意して勉強するのみに候へ共、あなたの御趣旨はそれにはなく、寫生畫の纏まらぬにもどかしくて、繪り丑拙や手段の如何に拘はらず、只々他人に見せてうなづかせ

得るものを、作りたしとの御覺召・存候。短氣は繪を習ふ上に尤も禁物、當然踏むべき順序は避くべからざるものに候へ共、一日も早く繪葉書でも描いて、友人を驚かし度とは、誰しも願ふ處なるべく存候まゝ、爰に尤も簡易なる寫生法を御傳授可申上候。

如何なる程度迄寫すべきやとは、初學の方々の誰も困難とする處と存候。精密に寫さんとして、畫面を眞黒にするも、臆病に筆をつけ兼ねて、印象の不慥な淡彩に止むるも、共に其道を得たるものには無之候。私の申す簡易なる方法とは、物をあまりに見過ず、又輕んぜずして、其寫すべき物の大體を、單純なる彩料にて着色するとに候。假令は爰に、雲あり山あり森あり水ある一の景色を寫さんとす



第十三回
五月雨を写す

時には、先づ其空は、實景が上部は藍に、下部は綠に近き色に見え候とも、それに拘泥せず、其空の中に尤も多き領分を占むる一色の繪具にて全體を塗るべく、雲は單に大體の形を残し置くのみにて、雲の陰の如きは描かずともよろしく候。次に遠山は、よしその山の皺の稍明かに見るとも、そを描かず。是も

一色に、又近き山も、遠き山より稍濃く、色も明かに出すのみにて、些細なる濃淡には眼を閉ち、森も草も小さき形や色を見ずに、只著しき點だけ調子を分け、河原の小石も、水上の波紋も、最も際立ちて見える處だけ其趣を示して、他は皆適當の一色にて描き、最後に其景色の主となるべき場處に、稍注意して強き色彩を用ひ候へば、繪葉畫的の極めて淡白なるものを得べく候。但しかる寫生は、輪廓最も大切にて、形曖昧なるときは、決して目的を達し得られまじく候。且着色も、近きは明かに強く、遠きはその反對に、また遠近の度も稍烈しく區別し、暖色寒色など使ひ別ける事尤も必要なるべく候。猶ほ寫生禱拜見の上、重ねて貴意を得べく候以上。